

就職

2011年度就職状況 ー本学の就職決定率は96.1%

2012年3月の卒業生は、リーマンショックに連鎖した世界的な不況の影響に加え、採用選考直前に発生した東日本大震災により採用スケジュールが変更されたことにより、非常に混乱するとともに苦戦した学生が多かったものと思われます。

そのような厳しい就職状況の中、本学は下表の通り、ほぼ前年並みの96.1%という実績を確保できました。

下のグラフに示したように前年度(2010年度)は、大卒求人倍率が1.28(リ

2011年度(2012年3月卒業生)
進路調査による本学学部学生就職内定率

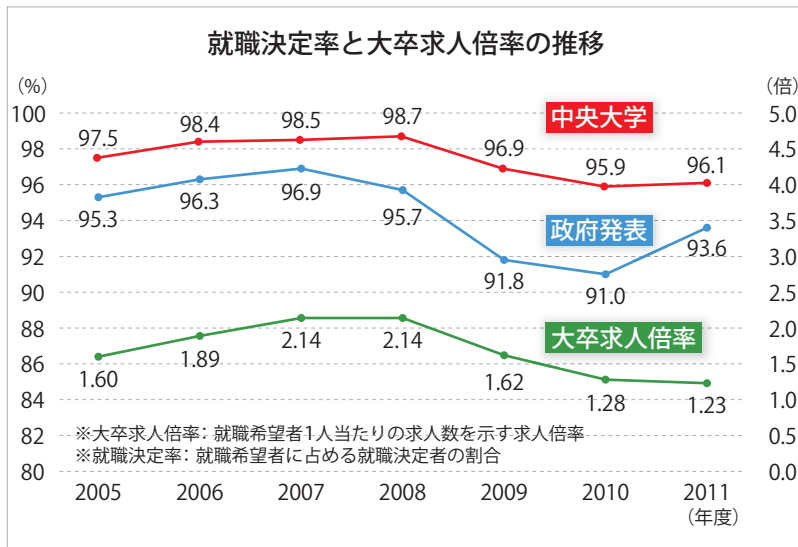
	男子	女子	男女計
文理合計	96.3%	95.8%	96.1%
昨年同時期	96.5%	94.9%	95.9%

※ 内定率=就職決定者/就職希望者

クルートワークス研究所調査)と2年連続で下降し、政府調査による大学の平均就職決定率が過去最低の91.0%を記録するなど、2009年度に続いて「就職氷河期の再来」と言われました。

2011年度も大卒求人倍率が1.23とさらに0.05ポイント下がり、一層厳しい採用状況となることが予測されましたが、結果的に政府発表の平均就職決定率は、93.61%と前年を大きく上回る結果となりました。

本学が96.1%という高い就職決定率を上げることができたのは、2009年度から実施している4年生対象の就職ガイダンスおよび合同企業説明会などの緊急支援策をさらに拡大して継続実施したことが奏功したものと考えています。



個人面談件数が3年連続で大幅増加

キャリアセンターでは、個人面談の機会を捉えて、「人間力」の重要性についての学生の気付きを引き出すとともに、業界・企業選択の悩みなどについて、個人の事情に応じたアドバイスを行っています。

面談を受ける学生は、就職に関する悩みや不安感を少なからず持っており、面談の延べ件数がグラフの通り3年連続で大幅に増加したことは、学生の危機感の高さと就職活動の厳しさを表していると言えます。

個人面談対応件数の推移

2008年度	6,548件
2009年度	8,356件
2010年度	9,748件
2011年度	11,087件

学员の方々には、キャリア支援と就職支援の各種プログラムへのご協力により、その根幹を支えていただいています。また、南甲倶楽部には、インターンシップ、キャリア教育科目などで全面的なご支援をいただいておりますが、加えて、2011年度には、学生と企業で活躍する学员の方々との直接交流を目的とした「OB・OG交流会」にもご協力いただき、10月1日(土)と9日(日)の2日間開催された交流会には、3年生を中心とした多くの学生が参加しま

した。ネット情報に依存する学生に対して、できるだけリアルな情報を届け、その後のOB・OG訪問の契機とすることが狙いであり、交流会の前には、数名の学员の方を講師とした業界研究会も開催しました。

OB・OG交流会(2011年実施)

- 10月1日(土) 多摩キャンパス
学员:31社38名 学生:96名参加
- 10月9日(日) 駿河台記念館
学员:43社51名 学生:172名参加

2012年度から、『「知性」×「行動特性」学修プログラム』が本格稼働 「知性(専門的知識・技術)」だけでなく、「行動特性(コンピテンシー)」のレベルアップを図る

『「知性」×「行動特性」学修プログラム』は、学生がプログラムを通じて大学卒業後に社会的・職業的自立を図るために必要な能力を向上させることを目的とした全学レベルの取り組みです。昨年度の試行期間を経て2012年度から本格稼働しており、「テーマ別プロジェクト」やその他の学内外の講座やイベント等に学生が主体的に参加し、「知性(専門的知識・技術)」だけでなく、本学が独自に設定した「行動特性(コンピテンシー)」のレベルアップを図るプログラムとなっています。学生は「C-Compass」というコンピテンシー自己評価システムを活用して定期的なコンピテンシーチェックや学修計画・成果の記録を行っています。

コンピテンシーは、

社会で活躍するために必要なコミュニケーション力、問題解決力など6分野、28項目に詳細定義されており、さらに各項目に5段階の到達度が設定されています。「テーマ別プロジェクト」は、現在のところ10テーマあり、学生が参加することができる約100の取り組みがテーマ別に分類され、コンピテンシー

の項目名等をキーワードに、参加すべき取り組みを検索することのできる仕組みも備えています。

大学としては、学生のコンピテンシーの育成効果測定を行い、教育改革に繋げるとともに、その成果を社会に発信することで、本学の教育力の高さを実証することができると考えています。

